

- [ソースロンダリング](#)
 - [解説「ソースロンダリング（情報源洗浄）」](#)
 - [イエロー・ジャーナリズム](#)
 - [海外メディアを通じた「ソースロンダリング」](#)
 - [ニューヨーク・タイムズ（ノリミツ・オオニシによる記事）](#)
 - [ノリミツ・オオニシ](#)
 - [ワシントンポスト](#)
 - [東京（＝自社内）駐在特派員による例](#)
 - [関連サイト](#)
-

ソースロンダリング

出典: フリー百科事典『[ウィキペディア（Wikipedia）](#)』

ソースロンダリング（Source Laundering）とは、**信憑性の薄い噂などを、あたかも真実であるかのように見せかけるために、社会的に信用のあるメディアや人物を介することで「情報源(ソース)の洗浄」を図り、信憑性を高める手法である。**資金洗浄（マネー・ロンダリング）をもじったもので、日本のブログである、[Irregular Expression](#)のブロガーgoriの造語である。元々はネット用語であるが、一部の書籍[1]にも、この用語が使用されている。

解説「ソースロンダリング（情報源洗浄）」

Irregular Expressionより引用

<http://www.wafu.ne.jp/~gori/diary3/200408271821.html>

BOXをクリック

+ ...

イエロー・ジャーナリズム

出典: フリー百科事典『[ウィキペディア（Wikipedia）](#)』

イエロー・ジャーナリズム(英: Yellow Journalism)とは、「事実報道」よりも“扇情的である事”を売り物とする形態のジャーナリズムのこと。

ジョーゼフ・ピューリツァー発行の『ニューヨーク・ワールド』紙、ウィリアム・ランドルフ・ハーストの『ニューヨーク・ジャーナル・アメリカン』両紙に掲載されたコマ漫画のキャラクター、イエロー・キッドに由来する。共に「黄色新聞（イエロー・ペーパー）」として知られた。

これは、多彩な形容詞と誇張の使用や、迅速さを優先して事実検証不足のニュース速報あるいは全出来事の慎重な偽造によって作り出された物語などのような形式をとる場合がある。

黄色新聞に扇情的に扱われた人間の興味話は、特にアメリカ合衆国で、19世紀を通じて発行部数と読者数を極度に増加させた。

海外メディアを通じた「ソースロンダリング」

日本のマスコミが、「海外ではこの様に言われている」と言うために使うソースロンダリング用メディア

ニューヨーク・タイムズ（ノリミツ・オオニシによる記事）

[ニューヨークタイムズ東京支局](#)は朝日本社に在駐。
NYTはオオニシという元日本人記者が日本に批判的な記事を書いています。
それを朝日新聞などが記者名は伏せ「海外メディアの声」として報道するという
確信犯な「ソースロンダリング」が繰り返されています。

ノリミツ・オオニシ

出典: [フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』](#)

ノリミツ・オオニシ（Norimitsu Onishi）は現在ニューヨーク・タイムズ紙で活動している新聞記者。カナダ人。ニューヨーク・タイムズ東京支局長。

経歴

千葉県市川市生まれ。4歳のときに両親と共にカナダに移住している。その後モントリオールなどで生活し、現在はカナダ国籍を取得している。米プリンストン大学で学生新聞編集長を務め、2003年にハワード・フレンチの後任としてニューヨーク・タイムズ紙の東京支局長に就任。東京支局長になる前は西アフリカのコートジボアールに赴任し、ナイジェリアの民政移管やシエラレオネの内戦、アメリカ同時多発テロ事件後のアフガニスタンなどを取材した。ニューヨーク・タイムズ紙と提携関係を有しているソウルタイムズ紙などにもスタッフ・ライターの肩書きで寄稿している。

署名記事例

2004年3月17日 - 「**全ての語句に漢字を用いる中国に対し、外国起源のものを特別にカタカナを用いて表記する日本文化は閉鎖的である**」などと主張した。

2005年4月11日 中国の反日デモに関して「日本は最近、高圧的な外交的態度を見せた。韓国との葛藤に続き、中国との関係も悪化している。アジアで孤立的状況を迎えている」「軍国主義的な過去史を美化する日本教科書問題は、国連常任理事国を目指す日本の未来にも影響を及ぼすだろう」などと報じた。

2006年3月20日 - 同年のWBCについて韓国が（優勝候補の筆頭である）アメリカとアジアでは最も有力と見られていた日本を立て続けに破った快進撃を報道。一部日本による占領下に置かれた過去の紹介と、イチローの発言を韓国を見下す発言として引用しているために、誤解を招きやすい内容となっている。

2006年6月25日 - 「**日本政府は（テポドン2号等の）北朝鮮のミサイル問題よりも中国・韓国との外交的足かせとなっている靖国神社問題を話すべきである**」と主張。

その他、最近の署名記事の一覧、BOXをクリック

...

ワシントンポスト

一例として

「米で、唯一麻生訪米を論評したワシントンポスト「麻生政権は、酔っぱらっているのか寝ているのかすら分からない」

<http://s02.megalodon.jp/2009-0227-2354-22/www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/02/23/AR2009022302602.html>

という記事を書かせてますが、記事の最後に注目。
Special correspondent Akiko Yamamoto contributed to this report.
となっており、ニュースソースは日本です、

日本の麻生叩き記事をそのままワシントンポストに送る。
ワシントンポストがそれをあちらの記者名で記事にする。
日本では「ワシントンポストがこんな事いってますよ～、海外での評判悪いですよ～」と報道する。

海外メディアとの間で、こういったソースロンダリングは頻繁に行われています、マスコミのいう「海外では～」は、その海外ソースの背景を確認しないかぎり、信用できません、

東京（＝自社内）駐在特派員による例

[「日本は軍事的脅威に免疫ない」 駐日特派員の見方](#)

2009年4月6日5時10分

今回の発射に対する日本社会の反応をどう見るか。東京に駐在する外国人特派員2人に聞いた。

[韓国紙・東亜日報](#)の徐永娥（ソ・ヨンア）・東京支局長（43）

発射予告の後、日本社会は全体的に神経をとがらせすぎているように見えた。まるで戦争が迫っているかのように伝えたメディアもあった。

北朝鮮の意図は国際社会の注目を集めることだから、残念ながら日本について言えば、成功してしまっている。韓国に比べて日本は全体的に軍事的脅威に対する免疫がないのではないかとも思う。

4日には防衛省で情報伝達ミスがあった。緊張した場面でこのようなミスがあるようでは、本当に軍事的に重要な局面できちんとした対応ができるのか不安になる。

ニューヨーク・タイムズのマーティン・ファクラー東京支局長（42）

ワシントンやソウルの冷静さに比べて、日本は騒ぎすぎた。北朝鮮は、米国がオバマ政権になりあまり注目されなくなったから、パフォーマンスをやっているだけ。

拉致問題もあり敏感になるのは分かるし、政治家は総選挙前で国を守っているところを見せたかったのだろうが、北朝鮮に攻撃の意図がないことは分かっていたはず。バランスに欠け、パフォーマンスに負けたと言える。誤報は、緊急事態の経験不足で起きたのだろうが、全体から見れば大きな問題ではないと思う。

関連サイト

（自動検索による外部リンクリストです。）

- [ここは酷いマトリックス方式ですね](#)
- [自治体の運営はめちゃくちゃ。w](#)
- [情報公開してから言え。w](#)
- [ゲハブログ最大手「はちま起稿」が謝罪文を掲載、管理人交代へ](#)
- [\[watch\]\[sankei\]\[media\] 求む読売ウォッチャー。他。](#)
- [\[Web\] NAVER まとめとソースロンダリング](#)
- [試される虚構新聞](#)
- [コピペは引用ではない](#)
- ["本来ならかなりリスクなはずの「テキトーな情報を許可を ...](#)
- [虚構新聞騒動とは何だったのか](#)

- [反日屋の「AY」って誰だ](#)
 - [反日屋の「AY」って誰だ 平井修一](#)
 - [【国籍法】日本は悪徳政治屋まみれ！河野太郎ほか（すが ...](#)
 - [バッドバンク入門](#)
 - [日本人の味方](#)
 - [世も末・・・それとも新日本社会へのセレモニーか。](#)
 - [「宮崎正弘の国際ニュース・早読み」南太平洋の楽園フィジー ...](#)
-